

加熱式「シェアを取る」

JT寺島社長が意欲

本社訪問

日本たばこ産業(JT)の寺島正道社長が4日、岐阜新聞本社を訪れ、矢島薫社長と面談した。加熱式たばこ器具「プルーム・エックス」の販売戦略について「半導体不足が落ち着き、調達できるようになった。今年はシェアを取りにいく」と意欲を示した。

プルーム・エックスは2021年8月発売の主力製品で、これまでのJTの加熱式と比べて、吸い応えが増したとされる。加熱式器具は外資が優勢な中「出遅れていたが、ようやく上向いてきた」。海外展開にも目を向け「4月のイタリアを皮切りに2年間で28カ国



「加熱式たばこのシェアを取りにいく」と語る寺島正道社長＝岐阜新聞本社

に投入する。ヨーロッパは加熱式が浸透し始めており、早めに攻める」とし、「向こう3年間で3千億円を加熱式のカテゴリーに投

資する」とも話した。たばこ事業の見通しに関して「コロナが明けて、減っていた免税品が動き始め、通常に戻った。コロナ禍でシェアが伸びた国があり、加熱式の投入効果もあり、

るので見通しは暗くない」と述べた。